

社団法人 私立大学情報教育委員会

平成 21 年度第 4 回 経営工学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事録

I. 日時：平成 21 年 10 月 8 日(木) 17:00～19:00

II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席委員：渡邊委員長，玉木，水野，中島，後藤，井端事務局長，恩田

配布資料

1. 第 3 回議事録
2. 第 4 回経営工学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事
3. 委員名簿
4. 経営工学の分野別学習・教育における学士力（渡邊委員長）
5. ①資料 経営工学分野の学士力指針に基づくコア・カリキュラム案（井上委員）
6. (参考 1) 経営工学の分野別学習・教育における学士力 前回資料（渡邊委員長）
7. (参考 2) 経営工学分野の学士力の指針に基づくコア・カリキュラムと到達目標案
8. (参考 3) 2009 年 9 月 19 日号 読売新聞記事

1. 報告資料の体裁について

議論に先立ち、最終資料の体裁について説明があった。

- ・現在の案における 1～4 を「到達目標」と呼び、これらを合わせて「学士力」と呼ぶ。
- ・これらの「到達目標」の下位に「コアカリキュラムのイメージ」を入れる。コアカリキュラムは「これだけは欠かせないもの」とし、全てを網羅的に入れるものではない。
- ・到達度の下位である「知識」「技能」には、①、②…と付番する。
- ・なるべく重複なく、括弧などによる但し書きも極力排除し、分かり易いものとする。

2. 最終締め切り

「経営工学の分野別学習・教育における学士力」について、今月末までにメールで各委員の意見を募り、修正を加えて次回委員会で最終決定する。委員会の議論に先立ち、最終的な決定を行う委員会日程を下記のように決定した。

[次回委員会]

11 月 6 日(金) 17:00～19:00

この日に最終決定する。

3. 経営工学の分野別学習・教育における学士力

委員長作成の案について、委員会で検討を行い、議論に基づいて修正・加筆を行った。本日作成した学士力案について、各委員に照会し、何かコメントがあれば委員長に申し出ること。個別

の「到達目標」4項目に関する議論、修正は下記の通り。

1. 経営資源を有効に活用するために、企業や組織体の活動を科学的に調査し、分析できる。

1-(1) コアカリキュラム

- ・コアカリキュラムのイメージとして、「経営の基礎」「業務と経営資源」「調査・分析の基礎」などとした。

1-(2) 到達度

- ・「業務を知る」ことは難しい。「業務」という言葉は、「業務活動」とした。
- ・「業務活動に関する分析手法」と「データの取得と整理」は同じことを述べているため、統合した。
- ・括弧書きを必要がない限り極力削除。

1-(3) 測定方法

- ・知識に関わる①～③の3項目については、論述形式あるいは選択形式。
- ・技能に関わる④については、記述形式ではなく、教員及び学生間のディスカッションを通じて、成果の発表により確認する。

2. 企業や知識の活動に関しての課題の発見、課題の構造化、課題の解決に必要な知識と基礎力を身につけている。

2-(1) コアカリキュラム

- ・コアカリキュラムのイメージとして、「オペレーションズ・マネジメント」「数理解析」「プロジェクトマネジメント基礎」「情報処理技術」などとした。

2-(2) 到達度

- ・「モデル化」「最適化」については、手法や数理的扱いそのものを理解しているレベルと、実問題について適用できるレベルでは異なるため、これらを分けて記述した。
- ・知識レベルとして、「問題解決のプロセス」「モデル化と最適化手法」「データ処理技術」「プロジェクトの管理・運営」の4項目を主とし、これらを①～④項目とした。
- ・技能レベルとして、「実際の問題について問題解決のプロセスを適用し、適切な手法を用いて解を導くことができる」こととする。

2-(3) 測定方法

- ・知識に関わる①～④の4項目については、論述形式あるいは選択形式。
- ・技能に関わる⑤については、記述形式ではなく、教員及び学生間のディスカッションを通じて、成果の発表により確認する。

3. 企業や組織体の活動に必要なシステムの計画・設計・運用・管理・改善の基礎知識・技術を身につけている。

3-(1) コアカリキュラム

- ・コアカリキュラムのイメージとして、「システム分析・設計」「コストマネジメント」「情報

システム」などとした。

3-(2) 到達度

- ・知識レベルとして、「経営資源に関する原則や手法」「経営資源に関する管理技術」の2項目を主とし、①,②とした。
- ・技能については、案をシンプル化し、「管理技術の適用とシステムの計画・設計」とした。

3-(3) 測定方法

- ・知識に関わる①と②については、論述形式あるいは選択形式。
- ・技能に関わる③については、記述形式ではなく、教員及び学生間のディスカッションを通じて、成果の発表により確認する。

4. 技術と経営およびこれらを取り巻く社会（地域、国、世界など）との関わりと、技術者の社会的責任を理解している。

4-(1) コアカリキュラム

- ・コアカリキュラムのイメージとして、「経営システムに関連する基礎的法知識」「技術者倫理」「環境マネジメント」などとした。

4-(2) 到達度

- ・「企業や組織体の活動が社会へ及ぼす影響」「技術者の役割と技術者倫理」の2項目を主とし、①,②とした。

4-(3) 測定方法

- ・論述形式で測定する。

以上